

# 発表：Aグループ

## 現在地建替型：『あそび×エンタメ×ゆとり』

- 様々な世代の方が図書館を楽しく過ごせるように、特に若い世代には、ゲーム室・マンガ小屋・ガチャガチャなど、あそびやエンタメ要素が重要。
- どの世代も訪れたいくなるような良い意味で緊張感のない図書館を作りたい。
- 静かな場所と話せる場所を分けるためにサイレントスペースなども必要。
- 上階をマンションにするといった案も出て、マンションの住人は図書館に訪れやすいと思った。
- 屋上を開放することでくつろげるスペースの創出につながる。

## 現本館リノベーション・民間テナント型：『効率化・多様性』

- エンタメ性のあるサービスは減らさざるを得なかったが、図書館に絶対残したほうがいいと考えるスペース（学習席や研究室など）は無くてはならないものと結論に至った。
- どの世代でも訪れやすくなるようにサイレントルームは必要と考えた。音が苦手な人もいると思うので。
- 現在の閉架の半分は館外へ移転させたのがポイント。



Aグループ発表者様

# 発表：Bグループ

## 現在地建替型：『オープンで市民が情報交流(市民図書情報)』

- 1階は声が出せるスペース、3階は公民館のようなグループワークができるような開放的な空間があれば良いと考えた。
- 館内に閲覧専用資料を用意して貸出中だったり、予約の多い本を図書館に来れば必ず読めるようにすれば良い。

## 現本館リノベーション・民間施設テナント型：『必要 最小(長寿命化)』

- 70年たっても使える図書館。
- 現本館の階段下のスペースは無駄なため、閲覧専用資料の配架やグループワークスペースを設置して有効活用。
- 面白いアイデアとしては和室の導入が案としてあがった。
- 地下のフロアでは3世代で過ごせるような演出が必要。
- 消防団に退去してもらえば図書館のスペースの確保につながる
- 閉架は市内の学校に移転し、有効スペースを確保。

Bグループ発表者 様

2023/09/04 19:06